

調査結果の概要

I 発育状態

1 身長（表1、図1）

(1) 令和元年度の男子の身長は、5歳、6歳、9歳から12歳及び17歳で前年度より高くなっている。また、8歳及び13歳から16歳では、前年度より低くなっている。7歳は、前年度と同じ数値となっている。

女子の身長は、5歳、6歳、14歳、16歳及び17歳で前年度より高くなっている。また、8歳から10歳、13歳及び15歳で前年度より低くなっている。7歳、11歳及び12歳は、前年度と同じ数値となっている。

(2) 令和元年度の身長を親の世代(30年前の平成元年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳及び13歳で1.1cm高く、女子では10歳で1.3cm高くなっている。

表1 年齢別 身長の平均値

(cm)

区分	年齢	男子					女子				
		令和元年度 A	平成30年度 B	前年度差 A-B	平成元年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	令和元年度 A	平成30年度 B	前年度差 A-B	平成元年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	111.0	110.6	0.4	111.2	△ 0.2	110.6	109.5	1.1	110.4	0.2
小学校	6歳	116.8	116.6	0.2	116.9	△ 0.1	116.0	115.9	0.1	115.9	0.1
	7歳	122.8	122.8	0.0	122.8	0.0	121.9	121.9	0.0	122.2	△ 0.3
	8歳	128.1	128.5	△ 0.4	128.5	△ 0.4	127.7	127.8	△ 0.1	128.0	△ 0.3
	9歳	133.6	133.4	0.2	134.1	△ 0.5	133.9	134.3	△ 0.4	133.7	0.2
	10歳	139.8	139.6	0.2	139.6	0.2	140.9	141.4	△ 0.5	139.6	1.3
	11歳	146.1	146.0	0.1	145.1	1.0	146.7	146.7	0.0	147.3	△ 0.6
中学校	12歳	153.6	153.2	0.4	152.5	1.1	152.1	152.1	0.0	152.0	0.1
	13歳	160.2	160.4	△ 0.2	159.1	1.1	155.6	156.0	△ 0.4	155.5	0.1
	14歳	166.0	166.2	△ 0.2	165.1	0.9	157.2	157.0	0.2	157.2	0.0
高等学校	15歳	168.2	169.2	△ 1.0	168.5	△ 0.3	157.8	157.9	△ 0.1	157.6	0.2
	16歳	170.2	170.3	△ 0.1	170.5	△ 0.3	158.4	158.1	0.3	158.5	△ 0.1
	17歳	171.5	170.8	0.7	171.0	0.5	158.8	158.1	0.7	158.6	0.2

(注) 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表について同じ。

図1 身長の平均値の推移(2-1)

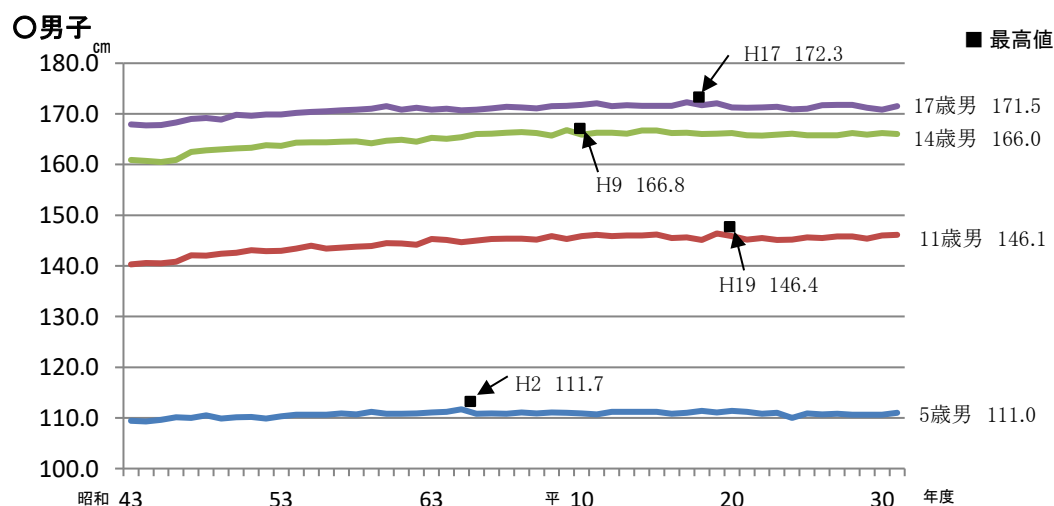
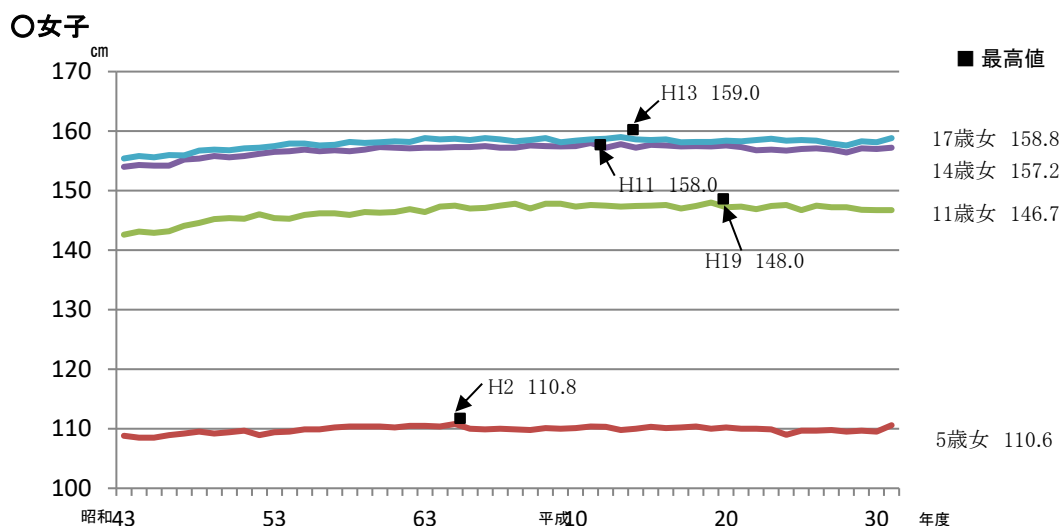


図1 身長の平均値の推移(2-2)



2 体重 (表2、図2)

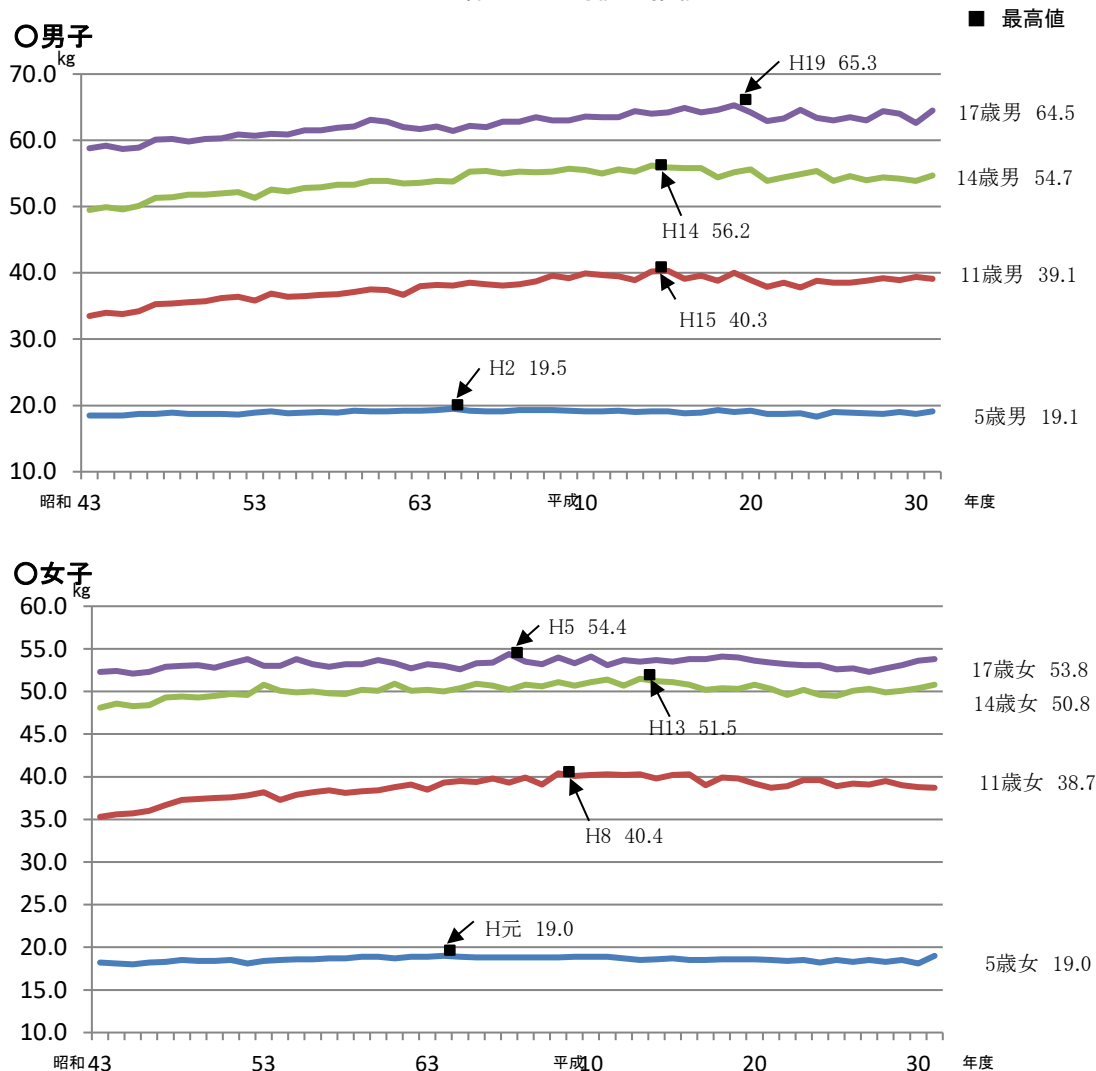
- (1) 令和元年度の男子の体重は、5歳、7歳、12歳、14歳、16歳及び17歳で前年度より増加している。また、8歳、10歳、11歳、13歳及び15歳で前年度より減少している。6歳及び9歳は、前年度と同じ数値となっている。
- 女子の体重は、5歳、7歳、8歳及び14歳から17歳で前年度より増加している。また、6歳及び9歳から13歳で、前年度より減少している。
- (2) 令和元年度の体重を親の世代(30年前の平成元年度の数値)と比較すると、最も差がある年齢は、男子では17歳で2.4kg重くなっており、女子では10歳、14歳及び17歳で0.8kg重くなっている。

表2 年齢別 体重の平均値

(kg)

区分		男子					女子				
		令和元年度 A	平成30年度 B	前年度差 A-B	平成元年度 C(親の世代)	世代間差 A-C	令和元年度 A	平成30年度 B	前年度差 A-B	平成元年度 C(親の世代)	世代間差 A-C
幼稚園	5歳	19.1	18.7	0.4	19.3	△ 0.2	19.0	18.1	0.9	19.0	0.0
小学校	6歳	21.5	21.5	0.0	21.5	0.0	20.9	21.0	△ 0.1	21.1	△ 0.2
	7歳	24.3	24.1	0.2	24.0	0.3	23.5	23.4	0.1	23.7	△ 0.2
	8歳	26.9	27.4	△ 0.5	27.3	△ 0.4	26.8	26.6	0.2	26.7	0.1
	9歳	30.5	30.5	0.0	30.9	△ 0.4	30.3	30.5	△ 0.2	30.0	0.3
	10歳	35.1	35.3	△ 0.2	34.2	0.9	34.6	35.3	△ 0.7	33.8	0.8
	11歳	39.1	39.4	△ 0.3	38.2	0.9	38.7	38.8	△ 0.1	39.3	△ 0.6
中学校	12歳	45.0	44.9	0.1	43.9	1.1	43.8	43.9	△ 0.1	44.0	△ 0.2
	13歳	48.8	49.2	△ 0.4	48.4	0.4	47.7	48.0	△ 0.3	47.8	△ 0.1
	14歳	54.7	53.9	0.8	53.9	0.8	50.8	50.4	0.4	50.0	0.8
高等学校	15歳	59.5	59.8	△ 0.3	58.6	0.9	52.7	51.4	1.3	52.4	0.3
	16歳	61.7	61.5	0.2	61.1	0.6	53.3	53.2	0.1	52.9	0.4
	17歳	64.5	62.6	1.9	62.1	2.4	53.8	53.6	0.2	53.0	0.8

図2 体重の平均値の推移



3 平均体格（表3、図3、別表1）

令和元年度の幼稚園、小学校、中学校及び高等学校における幼児、児童及び生徒の身長及び体重の平均値を年齢別、男女別にみると次のとおりである。

表3 体格の平均値と男女差

区分	年齢	身長 (cm)			体重 (kg)		
		男子 A	女子 B	差 A-B	男子 A	女子 B	差 A-B
幼稚園	5歳	111.0	110.6	0.4	19.1	19.0	0.1
	6歳	116.8	116.0	0.8	21.5	20.9	0.6
小学校	7歳	122.8	121.9	0.9	24.3	23.5	0.8
	8歳	128.1	127.7	0.4	26.9	26.8	0.1
	9歳	133.6	133.9	△ 0.3	30.5	30.3	0.2
	10歳	139.8	140.9	△ 1.1	35.1	34.6	0.5
	11歳	146.1	146.7	△ 0.6	39.1	38.7	0.4
中学校	12歳	153.6	152.1	1.5	45.0	43.8	1.2
	13歳	160.2	155.6	4.6	48.8	47.7	1.1
	14歳	166.0	157.2	8.8	54.7	50.8	3.9
高等学校	15歳	168.2	157.8	10.4	59.5	52.7	6.8
	16歳	170.2	158.4	11.8	61.7	53.3	8.4
	17歳	171.5	158.8	12.7	64.5	53.8	10.7

(1) 各年齢間の体格差

① 身長

男子は、11歳と12歳の間が7.5cmと最も大きく、16歳と17歳の間が1.3cmと最も小さい。女子は、9歳と10歳の間が7.0cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.4cmと最も小さい。

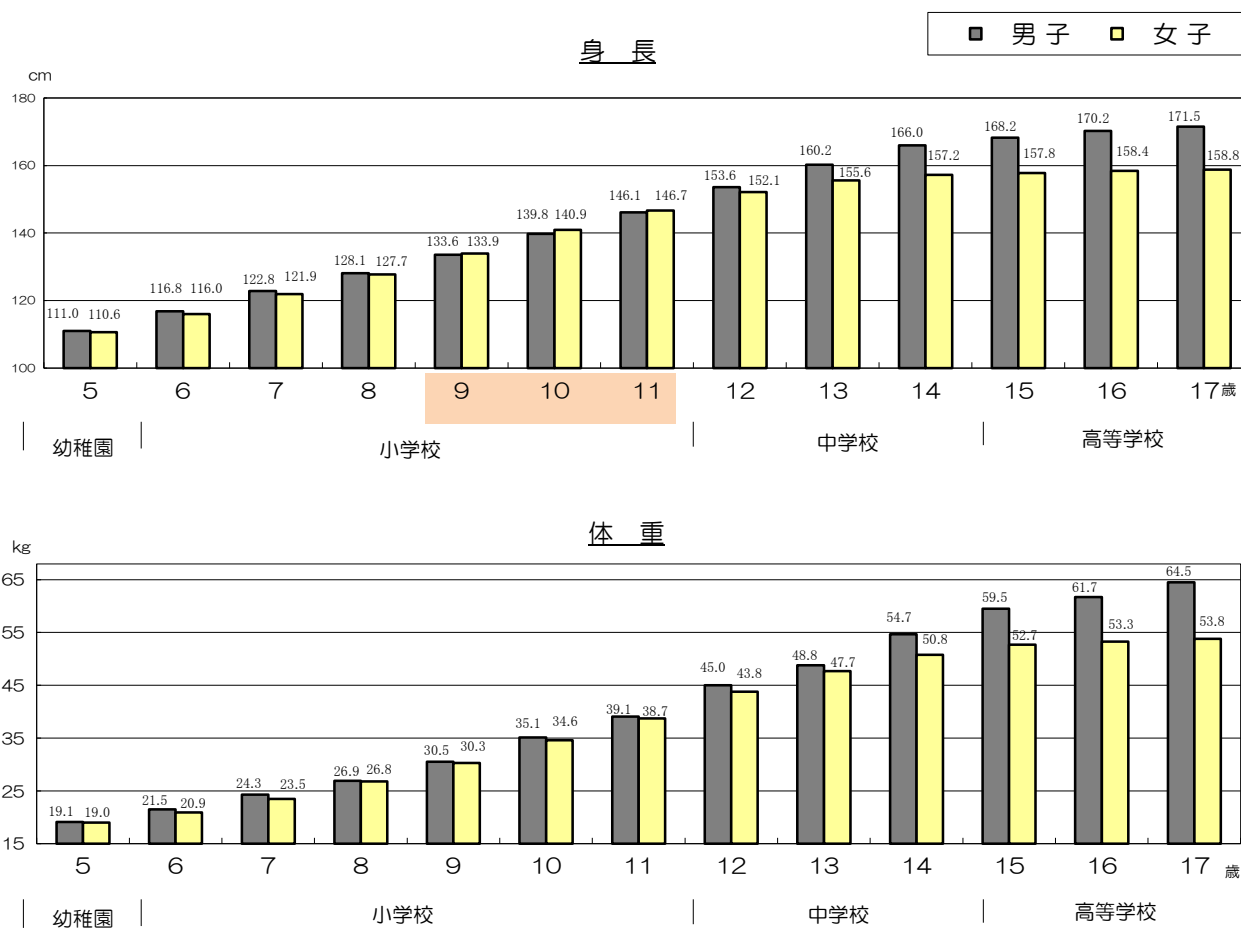
② 体重

男子は、11歳と12歳及び13歳と14歳の間が5.9kgと最も大きく、15歳と16歳の間が2.2kgと最も小さい。女子は、11歳と12歳の間が5.1kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.5kgと最も小さい。

(2) 男女の体格差

女子が男子を上回る発育年齢は、身長では9歳から11歳で、その差の最大は、10歳の1.1cmとなっている。体重は、全ての年齢で男子が女子を上回り、17歳での差は、身長12.7cm、体重10.7kgとなっている。

図3 年齢別平均体格



4 世代間比較 30年前(平成元年度)の体格との比較 (表4、別表2)

子世代(令和元年度)と親の世代(30年前の平成元年度)の体格を比較してみると、男子は10歳から14歳までと17歳の身長、7歳及び10歳から17歳までの体重、女子は、5歳、6歳、9歳、10歳、12歳、13歳、15歳及び17歳の身長、8歳から10歳までと14歳から17歳までの体重が増加している。

(1) 17歳(高校3年生)の体格の比較

17歳の体格を比較すると、30年前に比べて男子は身長が0.5cm高く、体重が2.4kg重くなっている。女子は身長が0.2cm高く、体重が0.8kg重くなっている。

(2) 体格差の最も大きい年齢

30年前と比べ最も差の大きい年齢は、男子は、身長が12歳及び13歳で1.1cm高く、体重が17歳で2.4kg重くなっている。女子は、身長が10歳で1.3cm高く、体重が10歳、14歳及び17歳で0.8kg重くなっている。

表4 30年前の体格との比較

区 分	身 長 (cm)			体 重 (kg)				
	令 和 元年度 A	平 成 元年度 B	差 A-B	令 和 元年度 A	平 成 元年度 B	差 A-B		
男 子	幼 稚 園	5歳	111.0	111.2	△ 0.2	19.1	19.3	△ 0.2
		6歳	116.8	116.9	△ 0.1	21.5	21.5	0.0
	小 学 校	7歳	122.8	122.8	0.0	24.3	24.0	0.3
		8歳	128.1	128.5	△ 0.4	26.9	27.3	△ 0.4
		9歳	133.6	134.1	△ 0.5	30.5	30.9	△ 0.4
		10歳	139.8	139.6	0.2	35.1	34.2	0.9
		11歳	146.1	145.1	1.0	39.1	38.2	0.9
	中 学 校	12歳	153.6	152.5	1.1	45.0	43.9	1.1
		13歳	160.2	159.1	1.1	48.8	48.4	0.4
		14歳	166.0	165.1	0.9	54.7	53.9	0.8
	高 等 学 校	15歳	168.2	168.5	△ 0.3	59.5	58.6	0.9
		16歳	170.2	170.5	△ 0.3	61.7	61.1	0.6
		17歳	171.5	171.0	0.5	64.5	62.1	2.4
女 子	幼 稚 園	5歳	110.6	110.4	0.2	19.0	19.0	0.0
		6歳	116.0	115.9	0.1	20.9	21.1	△ 0.2
	小 学 校	7歳	121.9	122.2	△ 0.3	23.5	23.7	△ 0.2
		8歳	127.7	128.0	△ 0.3	26.8	26.7	0.1
		9歳	133.9	133.7	0.2	30.3	30.0	0.3
		10歳	140.9	139.6	1.3	34.6	33.8	0.8
		11歳	146.7	147.3	△ 0.6	38.7	39.3	△ 0.6
	中 学 校	12歳	152.1	152.0	0.1	43.8	44.0	△ 0.2
		13歳	155.6	155.5	0.1	47.7	47.8	△ 0.1
		14歳	157.2	157.2	0.0	50.8	50.0	0.8
	高 等 学 校	15歳	157.8	157.6	0.2	52.7	52.4	0.3
		16歳	158.4	158.5	△ 0.1	53.3	52.9	0.4
		17歳	158.8	158.6	0.2	53.8	53.0	0.8

5 発育量の世代間比較 30年前(平成元年度)との比較 (表5、図4、別表5)

5歳から17歳まで12年間の総発育量と年間発育量の最も大きい年齢について、子世代(今年度調査の17歳(平成13年度生まれ))と親世代(30年前調査の17歳(昭和46年度生まれ))を比較すると、次のとおりである。

(1) 総発育量の比較

今年度17歳(平成13年度生まれ)の総発育量を30年前と比較すると、身長では男子は0.7cm減、女子は0.9cm減となっている。体重では男子は2.0kg増、女子は0.3kg増となっている。

(2) 年間発育量の最も大きい年齢

今年度17歳(平成13年度生まれ)の年間発育量をみると、男子は、身長は11歳時、体重は14歳時で最も大きく、女子は、身長は9歳時、体重は10歳時が最も大きい。

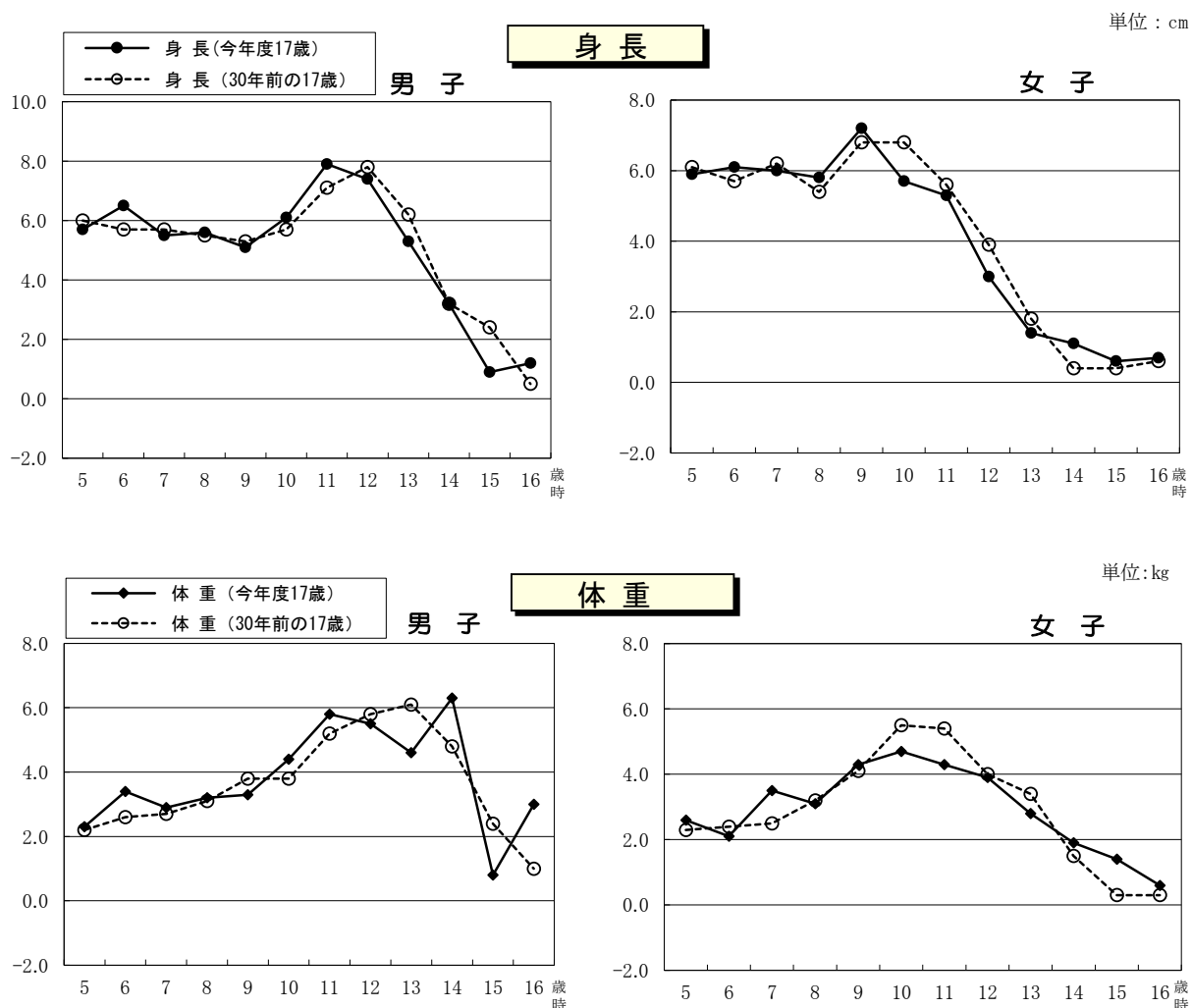
一方、30年前の17歳(昭和46年度生まれ)の年間発育量は、男子は身長は12歳時、体重は13歳時が最も大きく、女子は身長は9歳時及び10歳時、体重は10歳時が最も大きい。

表5 年次別、男女別、発育量の比較

区 分		男 子				女 子			
		5歳時 の体格	17歳時 の体格	総 発育量	年間発育量 最大の年齢	5歳時 の体格	17歳時 の体格	総 発育量	年間発育量 最大の年齢
身長 (cm)	昭和 46 年度生まれ	109.9	171.0	61.1	12歳時	108.9	158.6	49.7	9歳時、10歳時
	56	110.9	172.1	61.2	12歳時	110.5	158.6	48.1	9歳時
	3	111.0	171.2	60.2	12歳時	110.0	158.3	48.3	10歳時
	8	111.2	171.7	60.5	12歳時	110.0	158.4	48.4	9歳時
	平成 13	111.1	171.5	60.4	11歳時	110.0	158.8	48.8	9歳時
体重 (kg)	昭和 46 年度生まれ	18.6	62.1	43.5	13歳時	18.1	53.0	34.9	10歳時
	56	19.2	63.5	44.3	12歳時	18.9	53.1	34.2	11歳時
	3	19.2	62.9	43.7	14歳時	18.9	53.4	34.5	10歳時
	8	19.1	63.5	44.4	12歳時	18.6	52.7	34.1	9歳時、11歳時
	平成 13	19.0	64.5	45.5	14歳時	18.6	53.8	35.2	10歳時

- (注)1 総発育量とは、例えば、平成13年度生まれ(令和元年度17歳)の総発育量は、平成13年度生まれの「17歳時の体格」から「5歳時の体格」を引いたものである。
 2 年間発育量とは、例えば、平成13年度生まれ(令和元年度17歳)の「5歳時」の年間発育量は、平成20年度調査6歳の者の体格から19年度調査5歳の者の体格を引いた数値である。
 3 出生年度については、例えば、「平成13年度生まれ」とは、平成13年4月2日から翌年4月1日までに生まれた者をいう。

図4 年間発育量の30年前との比較



(注) 年間発育量とは、例えば、平成13年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成20年度調査6歳の者の体格から19年度調査5歳の者の体格を引いたものである。

II 健康状態

1 疾病・異常の被患率等別状況(表6、別表3)

疾病・異常を被患率等別にみると、幼稚園、小学校及び高等学校においては「むし歯(う歯)」の者の割合が最も多く、小学校では、次いで「裸眼視力1.0未満」の順となっている。

中学校においては、「裸眼視力1.0未満」が最も多く、次いで「むし歯(う歯)」の順となっている。

表6 主な疾病・異常被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	むし歯(う歯)	31.7	むし歯(う歯)	42.1	裸眼視力1.0未満	59.7	むし歯(う歯)	43.6
2	ぜん息	3.0	裸眼視力1.0未満	36.6	むし歯(う歯)	36.0	歯垢の状態	5.8
3	蛋白検出	2.5	鼻・副鼻腔疾患	8.3	歯垢の状態	4.3	歯肉の状態	5.4
4	その他の疾病・異常	1.8	歯・口腔のその他の疾病・異常	6.2	鼻・副鼻腔疾患	4.1	鼻・副鼻腔疾患	5.1
5	歯列・咬合	1.6	耳疾患	4.8	心電図異常	4.1	心電図異常	3.6

(注) 1「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、唾石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。

2「その他の疾病・異常」とは、この調査のいずれの調査項目にも該当しない疾病及び異常の者である。

2 主な疾病・異常等の推移(別表3・4)

(1) 栄養状態

令和元年度の栄養状態について「学校医から栄養不良又は肥満傾向で特に注意を要すると判定された者」の割合は、幼稚園が0.2%、小学校が0.7%、中学校が0.5%、高等学校が0.4%となっており、前年度と比べると、小学校及び高等学校では減少しているが、幼稚園では増加している。また、中学校では前年度と変わらなかった。

(2) 鼻・副鼻腔疾患

令和元年度の「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎(花粉症等)等)の者の割合は、幼稚園が皆無、小学校が8.3%、中学校が4.1%、高等学校が5.1%となっており、前年度と比べると、幼稚園では減少しているが、小学校、中学校及び高等学校では増加している。

(3) 心電図異常(6歳、12歳及び15歳時のみ)

令和元年度の「心電図異常」の割合は、小学校(6歳)で2.9%、中学校(12歳)で4.1%、高等学校(15歳)で3.6%となっており、前年度と比べると、中学校で減少しているが、小学校及び高等学校では増加している。

(4) ぜん息

令和元年度の「ぜん息」の者の割合は、幼稚園が3.0%、小学校が2.0%、中学校が1.2%、高等学校が0.9%となっており、前年度と比べると、小学校及び中学校では減少しているが、幼稚園及び高等学校では増加している。

(5) むし歯(う歯) (表7、表8、図5)

令和元年度の「むし歯」の者の割合(処置完了者を含む。以下同じ。)は、幼稚園が31.7%、小学校が42.1%、中学校が36.0%、高等学校が43.6%で、前年度と比べると、小学校、中学校及び高等学校では減少しているが、幼稚園では増加している。

令和元年度の被患率を10年前の平成21年度と比べると、幼稚園で16.8ポイント、小学校で23.9ポイント、中学校で22.8ポイント、高等学校で25.5ポイント低下している。

中学校1年生(12歳)のみを調査対象としている永久歯の1人当たりの平均むし歯等数(喪失歯及び処置歯数を含む)は0.9本で、前年度と変わらなかった。

表7 むし歯(う歯)の者の割合の推移

単位:%

区 分		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
幼稚園	計	48.5	X	38.2	35.9	32.4	28.1	23.0	29.4	26.4	30.1	31.7
	処置完了者	17.2	X	12.7	13.2	8.9	11.4	6.8	9.4	7.2	9.0	11.8
	未処置歯のある者	31.3	X	25.5	22.8	23.4	16.8	16.2	20.0	19.2	21.1	19.9
小学校	計	66.0	61.3	62.9	57.5	54.1	51.9	48.2	49.0	45.3	48.5	42.1
	処置完了者	29.8	26.3	27.0	25.4	23.8	22.0	21.2	21.8	20.5	20.7	19.7
	未処置歯のある者	36.2	34.9	35.9	32.1	30.4	29.9	27.0	27.2	24.9	27.7	22.4
中学校	計	58.8	55.7	58.5	52.8	52.4	49.6	44.9	43.2	41.0	42.0	36.0
	処置完了者	33.7	30.0	32.2	28.0	27.3	26.8	23.6	25.5	23.8	23.6	21.8
	未処置歯のある者	25.2	25.8	26.3	24.7	25.0	22.8	21.2	17.7	17.2	18.4	14.3
高等学校	計	69.1	62.2	62.1	57.1	59.4	53.0	56.0	55.0	48.2	47.2	43.6
	処置完了者	37.3	34.2	35.8	29.8	34.9	29.4	32.8	33.5	32.3	29.4	28.0
	未処置歯のある者	31.8	28.0	26.3	27.3	24.5	23.6	23.2	21.5	15.9	17.8	15.7

(注)1 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

2 [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者が100人(5歳は50人)未満又は回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

表8 12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数

(本)

区 分		平成元年度	平成11年度	平成21年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
計		4.97	3.17	1.7	1.1	1.1	1.0	0.9	0.9
喪失歯数		0.02	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
むし歯(う歯)	計	4.95	3.14	1.7	1.1	1.1	1.0	0.9	0.8
	処置歯数	3.65	2.43	1.2	0.6	0.7	0.7	0.6	0.6
	未処置歯数	1.30	0.71	0.5	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3

(6) 裸眼視力(表9、図6)

令和元年度の「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、小学校が36.6%、中学校が59.7%となっており、前年度と比較すると、小学校においては増加している。中学校は前年度と変わらなかった。なお、幼稚園及び高等学校の被患率は公表されていない。

また、令和元年度の被患率を10年前の平成21年度と比べると、小学校で5.6ポイント、中学校で0.7ポイント上昇している。

表9 裸眼視力1.0未満の者の割合の推移

単位:%

区 分		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
幼稚園	計	X	X	X	X	X	X	X	X	12.9	X	X
	1.0未満0.7以上	X	X	X	X	X	X	X	X	11.2	X	X
	0.7未満0.3以上	X	X	X	X	X	X	X	X	1.7	X	X
	0.3未満	X	X	X	X	X	X	X	X	-	X	X
小学校	計	31.0	31.7	31.7	31.0	31.5	30.0	32.5	33.8	32.2	34.4	36.6
	1.0未満0.7以上	9.3	10.1	10.8	10.0	10.5	9.7	10.4	10.7	9.7	10.8	11.3
	0.7未満0.3以上	11.9	11.9	12.1	12.1	12.8	12.0	13.0	12.6	12.5	13.6	14.4
	0.3未満	9.8	9.8	8.9	8.9	8.3	8.3	9.1	10.6	10.0	10.0	11.0
中学校	計	59.0	61.3	60.7	56.5	58.6	58.9	58.1	60.9	61.6	59.7	59.7
	1.0未満0.7以上	10.1	11.5	11.0	8.0	10.2	10.2	9.9	9.8	8.5	8.8	9.6
	0.7未満0.3以上	21.5	19.9	18.4	16.6	18.1	19.7	16.2	21.6	18.3	19.2	18.2
	0.3未満	27.5	29.9	31.2	31.8	30.4	29.0	31.9	29.4	34.9	31.7	31.9
高等学校	計	68.9	X	74.4	X	X	71.7	65.8	70.0	71.7	70.9	X
	1.0未満0.7以上	9.5	X	9.4	X	X	7.9	7.0	9.2	10.8	7.5	X
	0.7未満0.3以上	15.2	X	12.9	X	X	13.6	14.2	18.2	19.0	14.0	X
	0.3未満	44.2	X	52.1	X	X	50.2	44.5	42.7	41.9	49.3	X

(注)1 四捨五入の関係で項目計と内訳が一致しないことがある。

2 [X]は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

図5 むし歯(う歯)の者の割合の推移

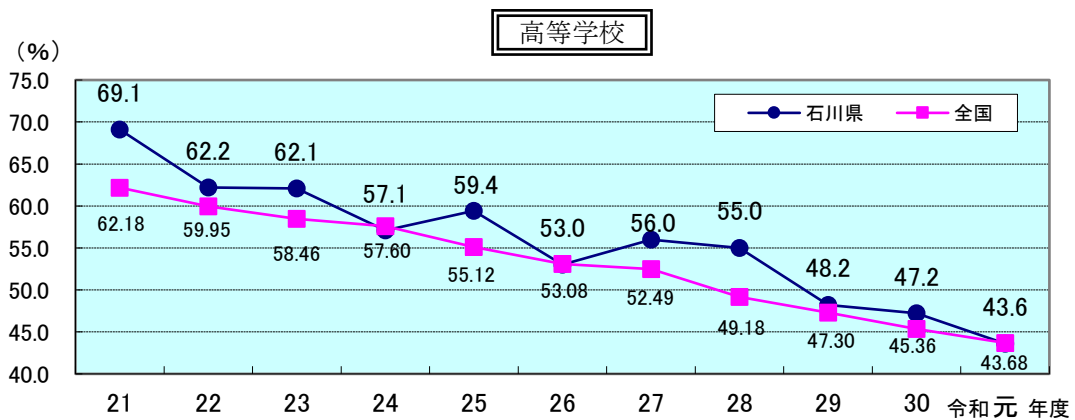
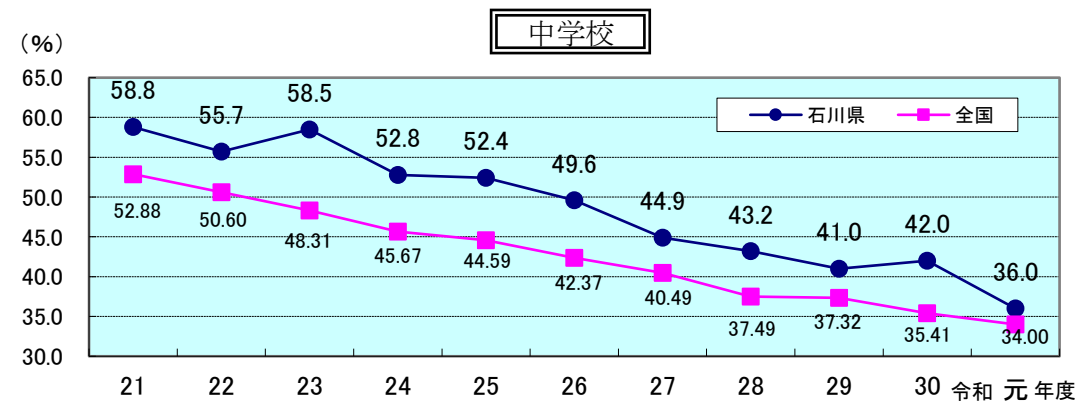
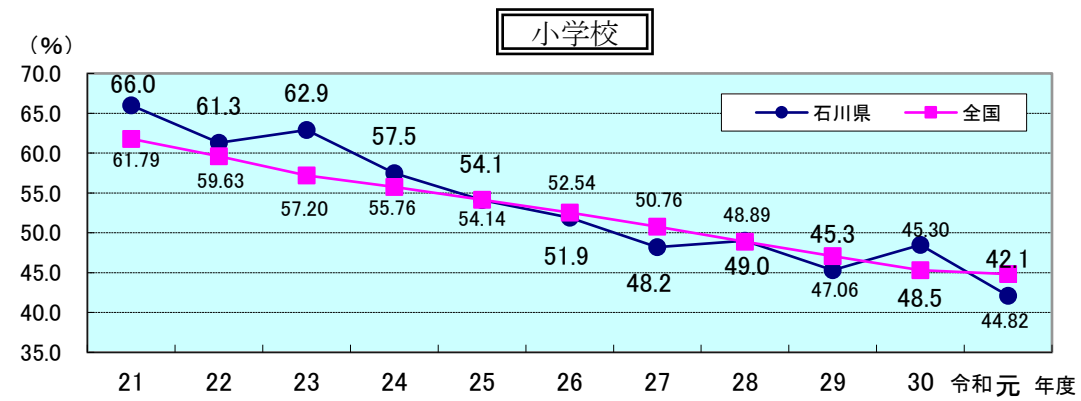
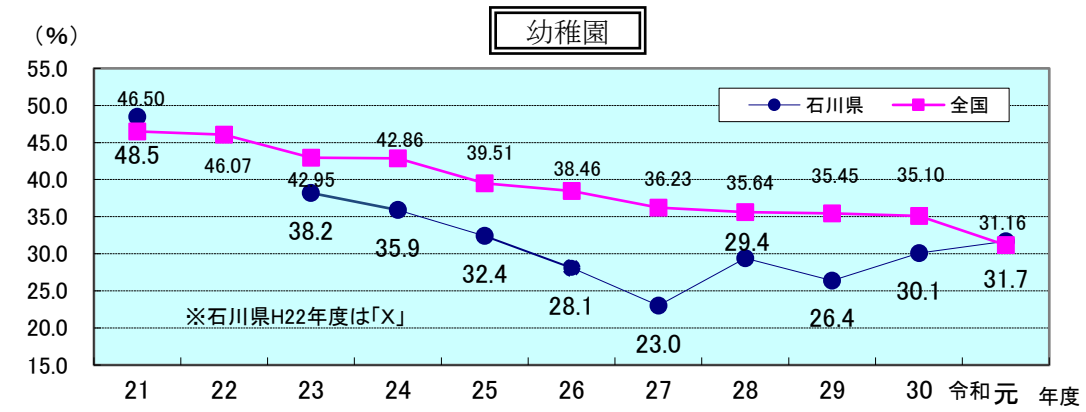
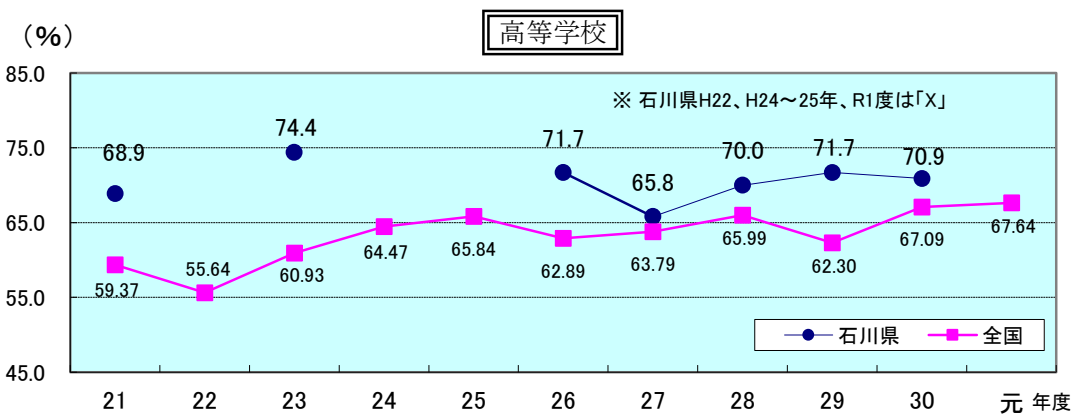
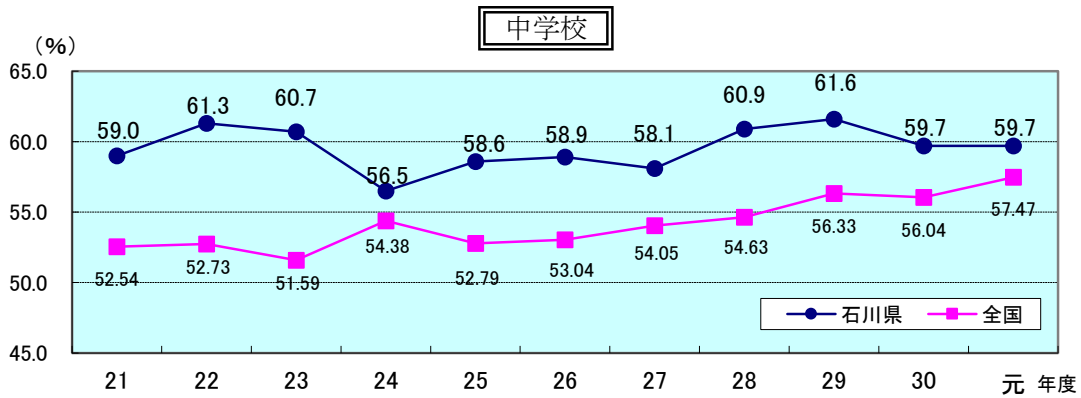
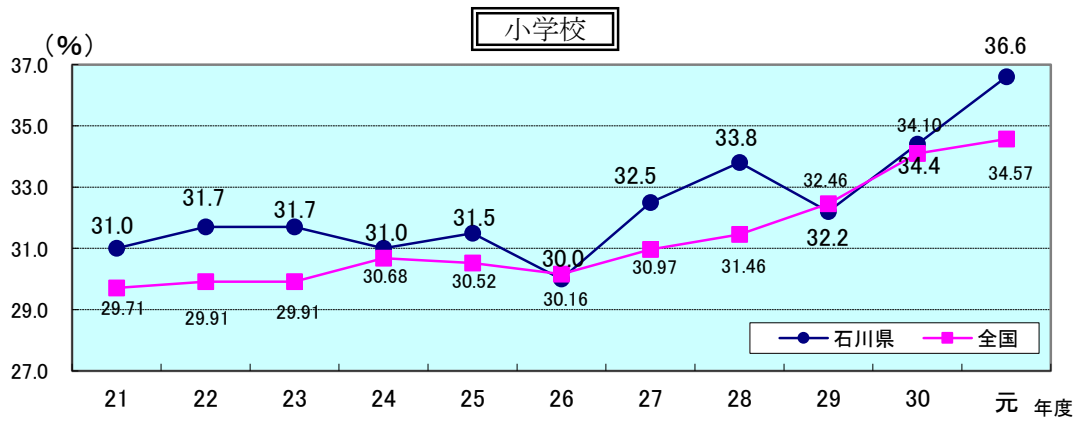
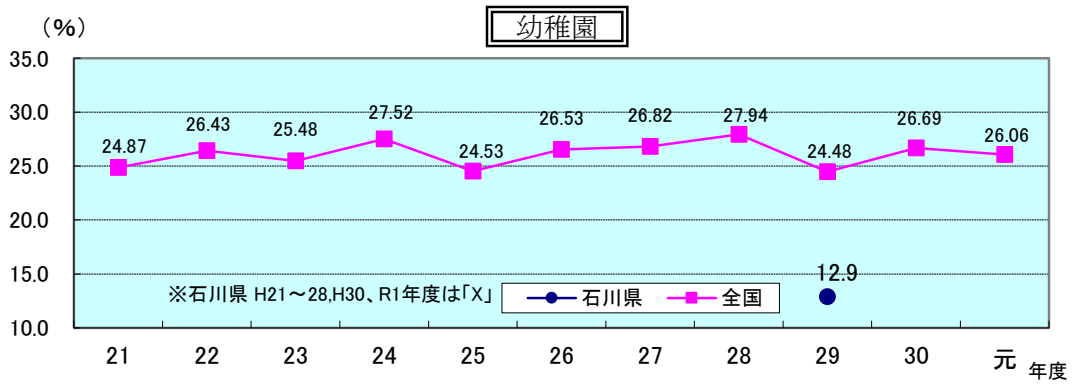


図6 裸眼視力1.0未満の者の推移



Ⅲ 全国値との比較

1 発育状態

(1) 全国平均体格との差 (表10、図7、別表1)

① 身長

男子は、8歳で全国平均値と同値、15歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。女子は、全ての年齢で全国平均値を上回っている。

② 体重

男子は、8歳、9歳及び13歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。女子は、6歳、7歳及び12歳で全国平均値と同値、11歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

表10 身長・体重の全国平均値との比較

区 分			身 長 (cm)			体 重 (kg)		
			石川県 A	全国 B	差 A-B	石川県 A	全国 B	差 A-B
男 子	幼稚園	5歳	111.0	110.3	0.7	19.1	18.9	0.2
		6歳	116.8	116.5	0.3	21.5	21.4	0.1
	小学校	7歳	122.8	122.6	0.2	24.3	24.2	0.1
		8歳	128.1	128.1	0.0	26.9	27.3	△ 0.4
		9歳	133.6	133.5	0.1	30.5	30.7	△ 0.2
		10歳	139.8	139.0	0.8	35.1	34.4	0.7
		11歳	146.1	145.2	0.9	39.1	38.7	0.4
	中学校	12歳	153.6	152.8	0.8	45.0	44.2	0.8
		13歳	160.2	160.0	0.2	48.8	49.2	△ 0.4
		14歳	166.0	165.4	0.6	54.7	54.1	0.6
	高等学校	15歳	168.2	168.3	△ 0.1	59.5	58.8	0.7
		16歳	170.2	169.9	0.3	61.7	60.7	1.0
		17歳	171.5	170.6	0.9	64.5	62.5	2.0
	女 子	幼稚園	5歳	110.6	109.4	1.2	19.0	18.6
6歳			116.0	115.6	0.4	20.9	20.9	0.0
小学校		7歳	121.9	121.4	0.5	23.5	23.5	0.0
		8歳	127.7	127.3	0.4	26.8	26.5	0.3
		9歳	133.9	133.4	0.5	30.3	30.0	0.3
		10歳	140.9	140.2	0.7	34.6	34.2	0.4
		11歳	146.7	146.6	0.1	38.7	39.0	△ 0.3
中学校		12歳	152.1	151.9	0.2	43.8	43.8	0.0
		13歳	155.6	154.8	0.8	47.7	47.3	0.4
		14歳	157.2	156.5	0.7	50.8	50.1	0.7
高等学校		15歳	157.8	157.2	0.6	52.7	51.7	1.0
		16歳	158.4	157.7	0.7	53.3	52.7	0.6
		17歳	158.8	157.9	0.9	53.8	53.0	0.8

(2) 総発育量の全国平均値との比較 (表11、別表5)

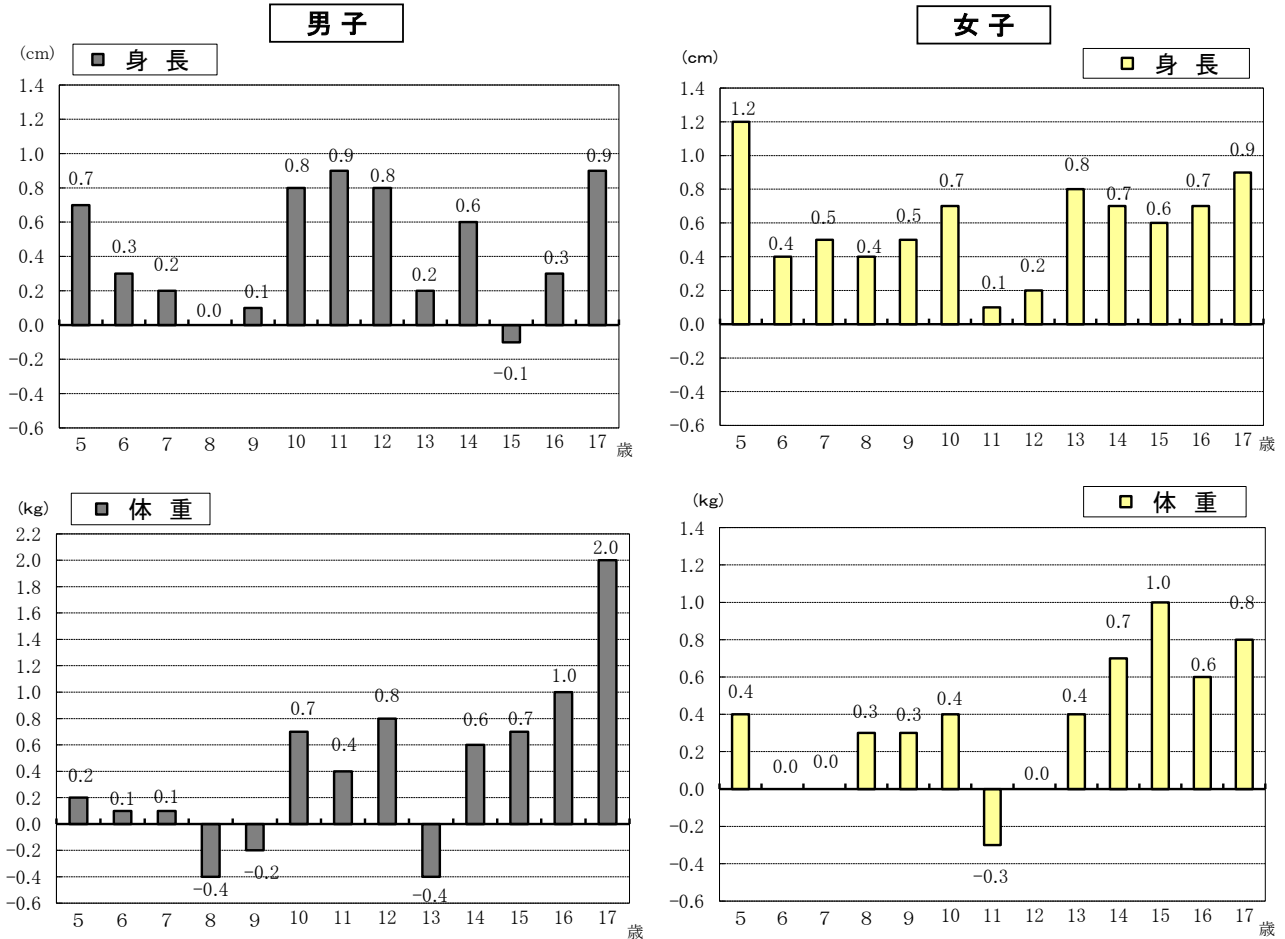
17歳(平成13年度生まれ)の総発育量を比較すると、男子は、身長は0.5cm全国平均値を上回っており、体重は2.1kg上回っている。女子は、身長は0.7cm全国平均値を上回っており、体重は0.9kg上回っている。

表11 総発育量の全国平均値との比較

区 分		男 子 (平成13年度生まれ)			女 子 (平成13年度生まれ)		
		5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A	5歳時の体格 A	17歳時の体格 B	総発育量 B-A
身長 (cm)	石 川 県	111.1	171.5	60.4	110.0	158.8	48.8
	全 国	110.7	170.6	59.9	109.8	157.9	48.1
体重 (kg)	石 川 県	19.0	64.5	45.5	18.6	53.8	35.2
	全 国	19.1	62.5	43.4	18.7	53.0	34.3

図7 年齢別体格の全国平均値との差

(全国平均値 = 0.0)



(3) 17歳(高校3年生)の身長の全国平均値との比較 (図8、図9)

17歳の身長を全国値と比較すると、石川県は男子、女子ともに全国平均値を上回っている。

(4) 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表12)

令和元年度の肥満傾向児の出現率は、男子では15歳の12.66%、女子では15歳の11.12%が最も高く、反対に男子では5歳の2.99%、女子では5歳の2.75%が最も低い。

また、全国平均と比べると、男子は5歳、15歳及び17歳において、女子は、13歳から15歳において上回っている。

表12 肥満傾向児の出現率の全国平均値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校							中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	2.87	3.82	5.18	6.65	7.92	8.51	8.06	9.38	7.53	7.88	11.92	7.68	9.81
	全国	2.77	4.51	6.02	7.54	9.24	9.57	10.00	9.86	8.77	8.18	9.81	8.92	9.29
男	石川県	2.99	3.98	5.44	6.78	8.23	9.71	8.47	10.93	6.67	7.59	12.66	10.13	11.69
	全国	2.63	4.68	6.41	8.16	10.57	10.63	11.11	11.18	9.63	8.96	11.72	10.50	10.56
女	石川県	2.75	3.66	4.90	6.52	7.61	7.32	7.63	7.79	8.41	8.17	11.12	5.12	7.81
	全国	2.93	4.33	5.61	6.88	7.85	8.46	8.84	8.48	7.88	7.37	7.84	7.30	7.99

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

(5) 痩身傾向児の出現率の全国平均値との比較 (表13)

令和元年度の痩身傾向児の出現率は男子では12歳の2.92%、女子では12歳の3.70%が最も高く、反対に、男子では7歳の0.32%、女子では6歳の0.40%が最も低い。

また、全国平均と比べると、男子では5歳、6歳、8歳、13歳及び16歳、女子は5歳、7歳から10歳、15歳及び17歳で全国平均値を上回っている。

表13 痩身傾向児率の出現率の全国値との比較

単位：%

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校			
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
計	石川県	0.57	0.52	0.60	1.19	1.40	2.61	2.62	3.31	2.80	1.84	2.75	1.99	2.08
	全国	0.32	0.49	0.41	0.91	1.60	2.66	2.97	3.59	2.92	2.50	2.99	2.25	2.20
男	石川県	0.36	0.63	0.32	1.16	1.07	2.28	2.58	2.92	2.64	1.38	2.61	2.77	1.09
	全国	0.33	0.42	0.37	0.73	1.55	2.61	3.25	2.99	2.31	2.40	3.60	2.60	2.68
女	石川県	0.80	0.40	0.90	1.21	1.75	2.93	2.67	3.70	2.96	2.30	2.90	1.18	3.13
	全国	0.31	0.56	0.45	1.09	1.65	2.71	2.67	4.22	3.56	2.59	2.36	1.89	1.71

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

図8 17歳男女平均値の推移

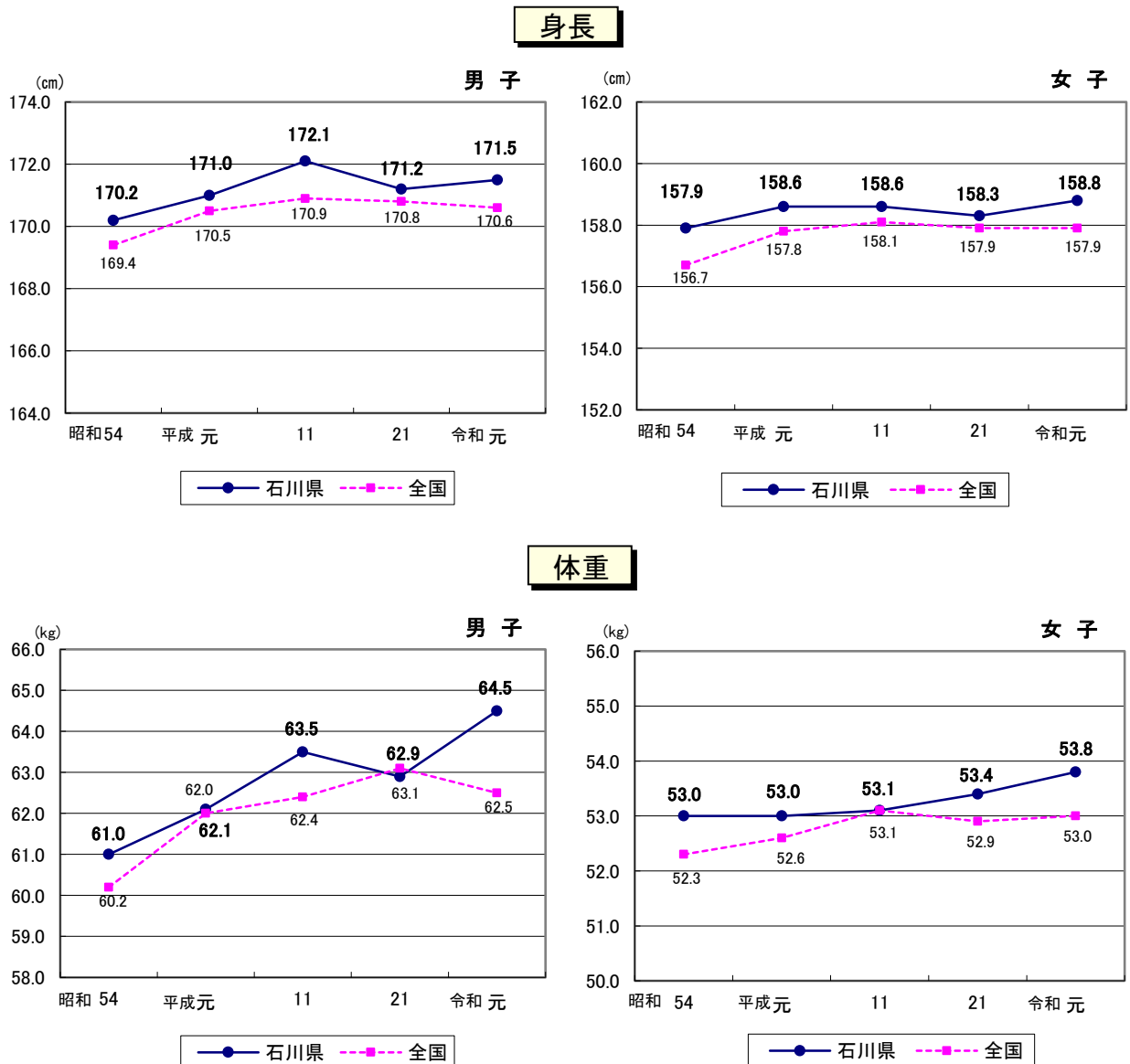
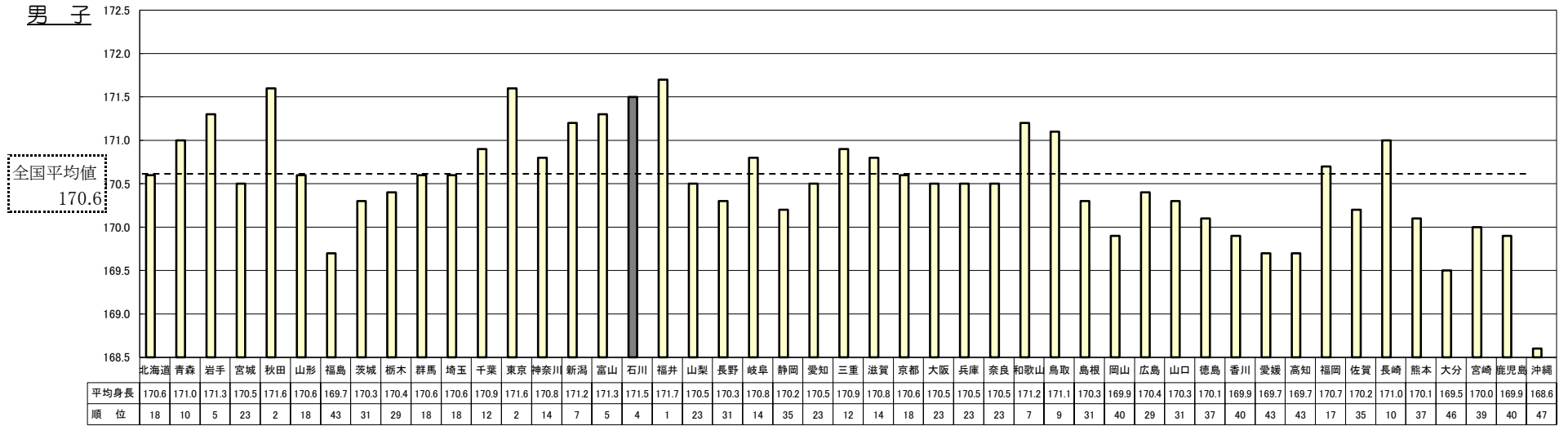


図9 都道府県別17歳の平均身長

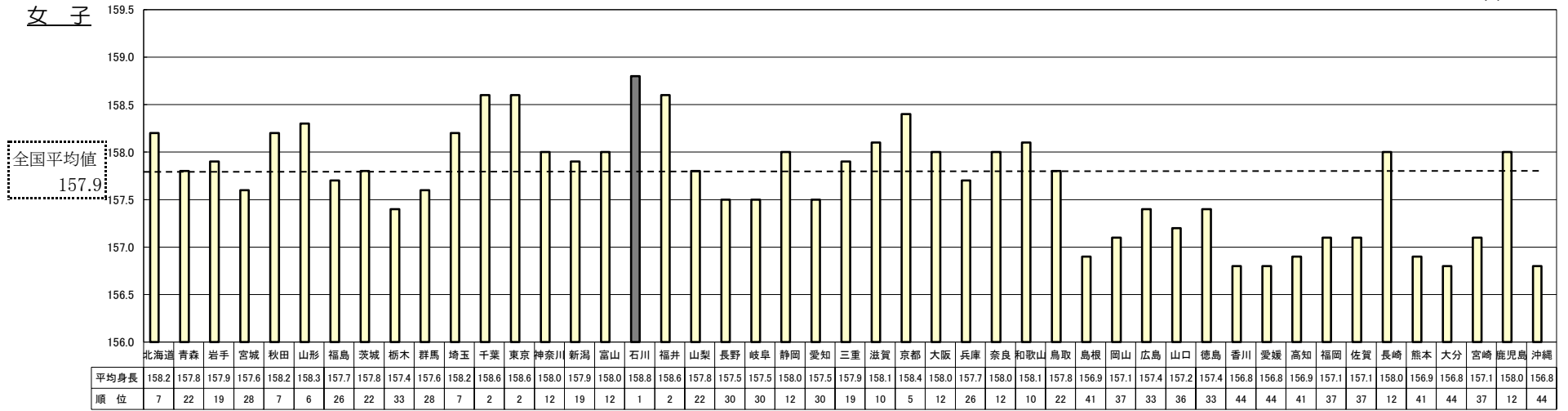
単位:cm

男子



女子

単位:cm



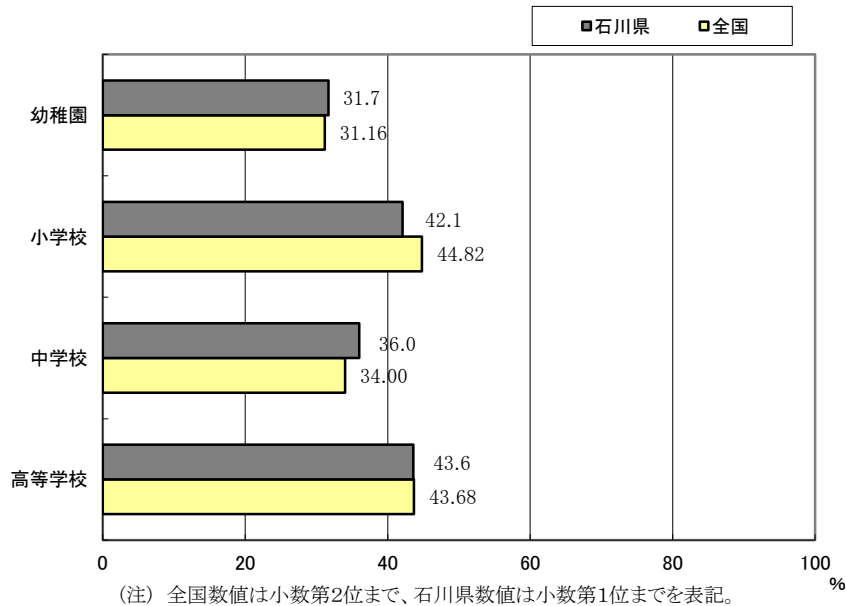
2 健康状態

○ 主な疾病・異常等の全国平均値との比較(図10・11、別表3参照)

(1) むし歯(う歯)の者の割合の全国平均値との比較

むし歯(う歯)の者の割合は、小学校では2.72ポイント、高等学校では0.08ポイント全国平均値をそれぞれ下回っているが、幼稚園では0.54ポイント、中学校では2.0ポイント全国平均値をそれぞれ上回っている。

図10 むし歯(う歯)の者の割合(全国平均値との比較)



(2) 裸眼視力1.0未満の者の割合の全国平均値との比較

裸眼視力1.0未満の者の割合は、小学校で2.03ポイント、中学校で2.23ポイント全国平均値をそれぞれ上回っている。

図11 裸眼視力1.0未満の者の割合(全国平均値との比較)

